



宇佐市安心院町では、明治時代くらいから鰻絵（こてえ）が盛んに作られてきました。現在 100 件ほど鰻絵があり、観光資源として注目されています。

①鰻絵とは、何ですか。記事から言葉を探して説明してください。

(.....) が仕事道具である鰻を使い、(.....) の白い壁面に浮き彫りにした絵。

②鰻絵には、どんな願いが込められていますか。

家の (.....) や (.....)

③鰻絵は 100 年たっても鮮やかな色が残ります。その理由を記事から探してください。

しっくいに、土や岩、貝殻など自然の物から出した (.....) を混ぜる「(.....) 技法」を使っているため。

④皆さんが住んでいる地域の「お宝」は何ですか？ 周囲の人に自慢しましょう。



▲明治時代に作られた鰻絵「鶴に松」



あじむ こてえ
安心院の鰻絵 = 宇佐市安心院町 =

鰻絵とは、壁や床などを塗る「左官職人」が仕事道具である鰻を使い、しっくい（白壁）面に浮き彫りにした絵のことです。雨戸（まうす）など（お宝）多く作られました。家の繁栄（はんえい）や無病息災（むびょうそくさい）の願いが込められています。七福神（しちふくじん）の「えびすさま」は商売繁盛（しょうばいはんせい）、虎（とら）は疫病（えきびょう）よけ、鶴（つる）は長寿（ちやうじゆ）を表しています。

明治時代（めいじじだい）くらいから盛（さか）んに作られました。しっくい（白壁）に色（いろ）を混（ま）ぜる「練（ね）り込（こ）み技（ぎ）法（ぽう）」を使（つか）っているため、100年（ひゃくねん）たつても鮮（あざ）やかな色（いろ）が残（のこ）ります。当（とう）時（じ）は土（つち）、岩（いわ）、貝（かい）殻（がら）など、自然（しぜん）の物（もの）を使（つか）って色（いろ）を出（だ）していまし（ま）た。

安心院町（あんしんいんちやう）には現（げん）在（ざい）100件（ひゃくけん）ほ（ほ）ど鰻絵（うなぎゑ）があ（あ）り



▲ユニークな作品も多い



▲雨戸（まうす）をしまし（ま）うす袋（ふくろ）に作（つく）られた電（でん）

すく（すぐ）き（ぎ）術（じゆつ）も（も）持（も）つ左官職人（さくわんしやくにん）の長野鉄蔵（ながのてつぞう）と14人（じゅうよんにん）の弟（あに）がいたこと（こと）など（な）から、多（おほ）く残（のこ）つてい（い）わ（わ）れていま（いま）す。時（じ）代（だい）を（を）経（けい）て家（か）の構（かま）造（ぞう）が（が）変（へん）化（か）し、技（ぎ）術（じゆつ）のあ（あ）る人（ひと）も減（へ）つたこと（こと）で、昭（しょう）和（わ）時（じ）代（だい）に入（い）ると次（つぎ）第（だい）に減（へ）つてい（い）きま（ま）した。

1993年（ねん）に開（ひら）かれた「鰻絵（うなぎゑ）シンポジウム」を（を）き（き）つ（つ）か（か）け（け）に、観（くわん）光（こう）資（し）源（げん）と（と）し（し）て注（ちゆ）目（め）さ（さ）れるよ（よ）う（う）にな（な）つたそう（そう）です。

2021年 11月 27日付
GXジュニア 4面